



避難所等の収納棚や間仕切り等として活用できる 木製組立て什器をご提供しています

Ver.3(2024/3/25)

- ▶ (公社)国土緑化推進機構では、「緑の募金」復旧支援使途限定募金(地震被害)として、「令和6年能登半島地震」の避難所等に、木の温もりを感じられる組立て什器「組手什」の提供を行っております。
- ▶ これまでも「組手什」は、東日本大震災・熊本地震等において、①避難所の各個人の区画でのプライバシー保護や生活用品の整理のため、また②共用スペースにおける支援物資の整理棚や下駄箱・傘立て等として活用されてきました。
- ▶ 避難所の生活環境の改善や心身のケア、共用スペースの有効活用に向けて、提供を希望される避難所等の方は、以下の連絡先までご一報ください。



東日本大震災の避難所での組手什活用事例

◆組手什とは

※避難所等での活用事例は、次ページをご覧ください。



- ▶ 組手什は、間伐材や製材端材などの有効活用や、森林整備を促進することも目指して考案され、過去の災害支援等でも重用され、2021年度前期のNHK連続テレビ小説『おかえりモネ』では「何にでもなる魔法の材料」として紹介されました。
- ▶ 長さ約 2 m×幅 40mm×厚さ 15mm の間伐材等に、“組手”とよばれる加工が施された部材を数本～数十本組み合わせて、収納棚から机まで、様々な用途に使える組立てキットです。

【特徴①】自由に何でもつくれる

：刻一刻と変化する避難所の状況や、避難者の多様なニーズに合わせて、自由にカットしたり組み合わせて、必要な什器等をつくれます。

【特徴②】誰でも簡単に組み立てられる

：組み立て方のコツさえ掴めれば、小学校低学年からご高齢の方まで誰でも組み立てられます。避難者同士の交流やリフレッシュになったという声も。

【特徴③】仮設住宅等で再利用できる

：接着剤を使わないため、仮設住宅・災害公営住宅等へ移り住む際に分解すれば、テレビ台や本棚などとして形を変えて再利用できます。

- ▶ また、国産材を使っており、木の温もりや香りが、避難者の心身の安らぎをもたらし、心身のケア等としても期待されます。

※ この活動は、「組手什おかげまわし東海」(愛知県名古屋市)、「登米町森林組合」(宮城県登米市)、「KURIMOKU」(宮城県栗原市)、「組手什甲賀」(滋賀県甲賀市)、「モリ田守」(栃木県佐野市)、岐阜県土岐市による組手什の提供、石川県木材産業振興協会/石川県木材青壮年会等による避難所等への提供活動の協力を得て、実施しています。

連絡先 (本支援活動事務局)

(公社)石川県木材産業振興協会 担当：古谷 隆明

(能登半島地震復興支援事業 担当理事)

[TEL] 076-238-5633 (フルタニランバー)・090-7589-2000 (携帯)

[E-mail] takaaki@furu-tani.co.jp

本資料の掲載先



◆避難所等での活用事例（東日本大震災・熊本地震の事例）

【個別スペース用】

○間仕切り・収納棚（基本タイプ／幅2m・高さ1m）



○間仕切り・収納棚（応用例／タオル掛け・化粧台、ランドセル入れ等）



【共用スペース用】

○支援物資収納棚（*1） ○各種備品整理棚（*4） ○下駄箱（*1）



○掲示板・資料台（*2）



○傘立て



○学習机（*3）



※写真の撮影場所／記載がない写真は熊本県西原村山西小学校避難所。その他は、*1：宮城県立石巻高校避難所／*2：山元町山下中学校避難所／*3：加美町中新田交流センター／*4：RQ市民災害救援センター（宮城・登米）。

◆令和6年度能登半島地震 提供活動事例（1）

◆石川県七尾市「矢田郷地区コミュニティセンター」

- 避難所の個別スペースは、防寒対策も土足で利用されていたが、衛生管理の観点から土足禁止とすることが要請されたことから、236名分（13台）の下駄箱を提供
- 避難所関係者、災害支援の自治体職員に加えて、避難者（女性や子どもも含む）や災害ボランティア等が参加し、複数家族が親子・友達同士で楽しみながら組み立て
- 避難者も配置された下駄箱・収納棚に触れながら、木の香りや温もりに喜ぶ声が多数
- さらには、共用スペースの支援物資の整理棚や、個人スペースの収納ボックスなども、避難者が愉しみながら組み立てて、木の温もりを活かした生活環境の改善の取り組みで活用
- 避難所運営責任者の感想（関軒 明宏氏／矢田郷地区まちづくり協議会 事務局長）
「木の下駄箱を組み立て、設置していくにつれ、杉の香りにつつまれ、それだけで癒し空間になりました。私たち被災者の心に木の温もりが伝わってきます。ご支援、本当にありがとうございました。」



◆令和6年度能登半島地震 提供活動事例（2）

◆石川県七尾市「能登島地区コミュニティセンター」

- 避難所には、下駄箱や支援物資・子どもたちの遊び道具の棚がなかったため提供活動を実施。
- 東日本大震災後以降に被災地支援活動を行っていたロックバンド「BRAHMAN（ブラフマン）」も、被災地への支援活動と一体となって組手什の提供活動に参加
- コミュニティセンターでは、子どもたちが主体となったワークショップも開催



◆石川県七尾市「田鶴浜地区コミュニティセンター」

- 避難所には、下駄箱や支援物資の棚等がなかったために組手什を提供。田鶴浜地区は、建具の町でもあったため、避難者等が主体となって組み立て。
- さらに、避難所女子チームが、日用品の整理で困っていたため、皆で相談して、自分たちで寸法を検討して、有志で組み立てて完成させており、大変喜ばれた。



◆地場産「組手什」の製造

- 能登半島等の被災地の復興と、被災地の森林整備等にも繋ぐため、能登ヒバをはじめとして石川県産材を使用し、能登半島を中心に石川県内で加工した地場産「組手什」の生産・提供を進めています。
- 地域の木の温もりで、避難所等の支援を取り組んでいきます。



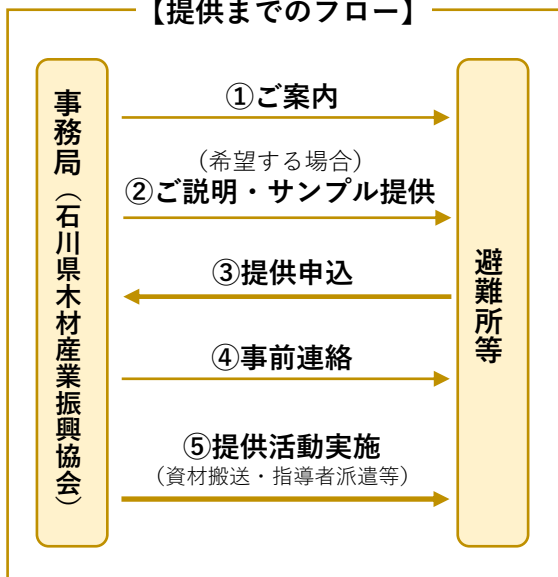
◆令和6年度能登半島地震 提供活動事例（3）

◆石川県輪島市『河原田公民館』『河原田小学校』『七浦公民館』『諸岡公民館』『門前公民館』『門前東小学校』『門前西小学校』『門前中学校』『門前高校』『楓の家』

- 避難所生活が長期化している輪島市門前支所管内は、小規模な避難所が多いことから、支援物資の集配拠点「門前健民体育館」に納品した上で、各避難所のニーズに合わせて提供。
- 各避難所の状況に応じて、下駄箱、傘立て、支援物資整理棚、配膳置き台、食品整理棚、個別スペースの荷物整理棚などが制作され、多様なニーズに貢献しました。
- 避難所で暮らす子どもや女性に加えて、地元の大工や学生ボランティア等も参加して、楽しみながら組立て、香りの良さからも好評を得て、木の良さを感じて頂く機会となりました。



【提供までのフロー】



- ✓ 原則的に、左記のフローで避難所等のご意向を事務局にご連絡頂けたら、提供にお伺いします。
- ✓ なお、ワークショップを開催して、避難者等が当日に組み立てたいものを検討して制作する方式も可能です。

- ① ご案内 (本案内)
- ② ご説明・サンプル提供等 (希望する場合)
 - 組手仕の現物をお持ちし、提供活動についてご説明致します。
 - また、避難者の意向を確認するための「間仕切り・収納棚」等のサンプルや、希望に応じて共用スペース用の「整理棚」「下駄箱」等を制作・提供します。

- ③ 提供申込
 - 以下について、事務局までご連絡下さい。
(聞き間違いの無いように、E-mailが推奨)

- (1). 希望する整理棚等の種類・数量 (概数)
 - ※ワークショップ開催の場合は、想定参加者数をご連絡下さい
- (2). 提供希望時期
- (3). 組み立て方法 (派遣する指導者の下で、避難者やボランティア等による組み立ての可否)
- (4). 担当者連絡先 (氏名、所属/役職、電話)

- 申込は、できるだけ避難所の役場担当職員・運営責任者やその代理の方、避難所内のグループや支援組織等の代表者が行って下さい。

- ④ 事前連絡
 - 申込内容 (希望時期・数量・組み立て方法) を鑑みて、提供可能数量・実施日程等についてご連絡します。(申込後、概ね3日以内)
 - 提供日程が確定しましたら、作業スペースの確保、避難者等へのご案内、組み立てのボランティア確保等の調整をお願い致します。

- ⑤ 提供活動実施 (ワークショップ等)
 - 車両で「組手仕」を搬入しますので、駐車スペース・荷下ろし場所等をご指定下さい。
 - 組み立て作業・ワークショップの実施スペースをご指定下さい。(工具やビニールシート等は持参します。)
 - 電動丸鋸を使用するため、近くに電源があることが望まれます。
 - 避難者のニーズにあった什器を提供できるように、可能な避難者をご参加下さい。
 - 指導者は派遣しますが、可能であればボランティア等の確保をご調整下さい。
 - 当日は、避難者やボランティア等への呼びかけは避難所側でお願いします。

【サンプルの展示例】



【提供活動・ワークショップの例】



子供や女性・高齢者でも組み立てられます

◆参考：「緑の募金」復旧支援使途限定募金（地震被害）



令和 6 年 1 月 15 日
公益社団法人 国土緑化推進機構

「復旧支援使途限定募金（地震被害）」へのご協力をお願い （能登半島地震被災地への支援）

1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、1月15日から「緑の募金」の春の募金期間（～5月31日）が始まりました。「緑の募金」は、個人及び団体から広くご寄附を募り、国内外で森林整備や緑化推進の活動を実施する市民ボランティア団体等の支援に活用するものです。

「緑の募金」のうち、特に、地震災害被災地の復旧・復興に向け緑化等を通じた支援をするため、被災地支援に使途を限定した「**復旧支援使途限定募金（地震被害）**」の受付を行い、被災地の要望に添った支援を実施することとしています。

<https://www.green.or.jp/bokin/first/shinsaifukkou/earthquake>

これまで、熊本地震や北海道胆振東部地震等の被災地の復旧支援に取り組んできましたが、令和6年能登半島地震につきましても、被災された方々の生活環境の向上・復旧等を目的としたボランティア活動を、長期的に支援していくこととしています。

「緑の募金」／「復旧支援使途限定募金（地震被害）」へのご協力を宜しくお願ひします。

- ご寄附は、以下のいずれの方法でも可能です。
 - 個人での募金
 - 企業・団体での募金
 - 職場・学校での募金
- 振込方法
 - 郵便口座（東京 00180-6-392836 緑の募金）へお振込みをお願いします。
郵便局窓口で「手数料免除です。」と告げてお振込みいただくと振込手数料が免除されます。
また、振込用紙の通信欄に「復旧支援使途限定募金（地震被害）」と記入してください。
 - 銀行口座（みずほ銀行 町村会館出張所 店番号 013 口座番号 1834713 普通 公益社団法人国土緑化推進機構）へのお振込みをお願いします。
また、振込者名に「(地震)」と付加する等、使途限定とお知らせ下さい。
 - クレジットカード又はインターネットバンキングも利用できます。
<https://fundexapp.jp/midorinobokin/entry.php> からお願いします。
「寄附目的」で「使途限定・地震被災地支援」をお選びください。

（担当：募金部 03-3262-8457）

◆参考：関連サイト

「組手什」
組立て方説明資料
・組立て図面



「緑の募金」
東日本大震災での支援
（WEBサイト）



「緑の募金」
熊本地震での支援
（パンフレット等）



NHK「知っとク東北」
おかえりモネ・
組手什説明ページ

